

## 岡山市の学校給食をみんなで

発行日  
2021.02.15  
kyushoku@ocwu.jp

良くする会  
便り



# 教育長に署名(5848筆)を提出!

2020年11月から2021年1月末まで取り組んだ署名は、年末年始を挟んだ極めて短期間で、さらにコロナ禍で声かけも厳しい状況の中でしたが、5848筆に達しました。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました!



## (改めて…)何が問題なのか

岡山市教育委員会は、現在約2500食を作っている給食センターを7000食が調理可能な大規模センターに移転建設しようとしています。老朽化に対応するための建替は、私たちも反対していません。しかし市教委は、7000食にするために、自校調理方式で行っている中学校の給食を給食センターに集約し、ゆくゆくは全中学校給食をセンターに集約する方針を示しています。「小学校は自校方式を基本」としながら「規模によって検討」として、今後、小学校給食までセンターからの配送になることが危惧されます。

これからの子どもたちの全ての教育の基本である「食育」が、既存給食センターの「老朽化」に端を発して、「コスト」「人員確保」「少子化」を口実に、単なる昼食に変質させられていくことは、何としても止めないといけません。

## 2月12日に岡山市教委へ申入れ

集まった5848筆の署名の提出時には、(市教委の皆さんは困惑されていましたが…)数社のマスコミも取材に来ました。参加した保護者から「アレルギーを持つ子どもが増えているので、食の専門家の栄養士の配置は必要。赤田の給食センターの試食会に参加したら、給食センター建て替えのことを保護者は知らなかった。もっとオープンにすべき。」「お母さんたちは今の学校に給食室があって当たり前と思っている。何も知らせずに給食センターへの集約を進めるのか。知った時に給食室がなくなっていたというのは心配。コストより子どもの食育を考えてほしい。」「中学生になったら自分で食事などを買う機会

も増える。中学生こそ食についてもっと理解を深める食育が大切。」と伝え、自校調理場の拡充と食育の充実を求めました。

## 市教委は「コスト」一辺倒!? もっと、学校現場の実態を知って!

こうした私たちの願いに対して教育長は、「市として給食にコストがかかりすぎる。効率化は無視できない。『岡山市学校給食運営検討委員会』で給食センター移転建設にお墨付きをもらった。小学校は自校方式で食育を進める。中学校はセンター給食や親子給食で行っても、食育は後退しない。食育は大切だが、学校に栄養士がいなくてできないことはない。食育は教育課程に位置づけられているので学校全体で取り組むことである。栄養士がいなくても特別活動で担任が教材を工夫して食育をしている。栄養士がいなくても全部は出来ない。」と言いました。

しかし、現実には栄養士が不在のために給食現場も食育も混乱して、子どもたちに不利益になっています。

## 保護者のみなさんにも、 もっと知ってもらいたい!

良くする会は、今後も自校方式の拡充を求めて取り組みを進めていきます。しかし、岡山市が進めている「大規模給食センターの移転建設」や「全中学校の給食センターへの集約」を、多くの保護者や市民の方々をご存知ありません。

そこで、まずは新しく大規模給食センターに集約されるといわれている、高島・富山・操南・旭東・西大寺・福浜・福南の各中学校区の保護者や地域の方々と、良くする会のメンバーと懇談が出来ないかと思っています。今の状況をお伝えし、保護者のご意見もお聞きしたいと思います。コロナ禍なので、多くの方との会合は難しいかもしれませんが、小さい集まりなど行っていきたく思います。集まりができそうであれば、良くする会事務局(kyushoku@ocwu.jp)に連絡をよろしくお願いします。

